



平成23年度  
研究調査報告  
【概要版】

第388集 坂下 博夫 今井 啓介

小学校算数科における「非連続型テキストを読む力」の育成に関する研究  
～ICTをツールとして～

第389集 市森 幸子 渡辺 由紀 古森 ゆかり

学校における不登校及び不登校傾向生徒への効果的な支援方法の研究  
～登校支援委員会での取り組みを中心に～

### 1 研究の目的

小学校算数科において、ICT を効果的に活用することで、「非連続型テキストを読む力」を育成できることを明らかにする。

### 2 研究の内容と方法

#### (1) 「非連続型テキストを読む力」の育成

6年生の算数科の単元「算数の目で見てみよう」で、「ICTを活用する」授業と「ICTを活用しない」授業を展開し、ICT 活用の効果を分析する。

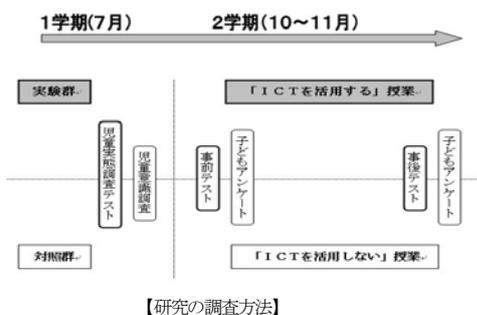
#### (2) ICT を活用した授業

ICT の活用意図の一つである「学び方の補完」という観点を中心にして、以下のような内容で検証授業を行う。

- ・グラフが伸びたり動いたり、円グラフを直線上に分解したりするようなシミュレーションをすることで、「思考の流れの可視化」を図る。
- ・課題に関係する映像を見せたり、複数のテキストの中から必要なものだけを見せたりすることで、「課題の焦点化」を図る。
- ・書画カメラを使用し、手元と同じものを大きく映し出す。どこに何を書けばよいのかをはっきりさせることで、「表現方法の共有化」を図る。

#### (3) 効果の測定

検証授業前後で「非連続型テキスト」の活用型テストを実施し、「ICT活用あり」と「ICT活用なし」で比較、分析する。対象人数は約430名（市内4校）とする。



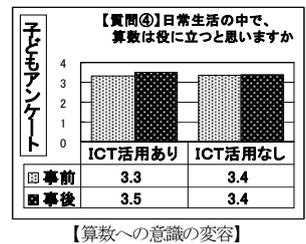
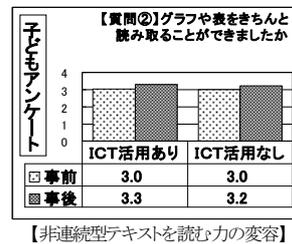
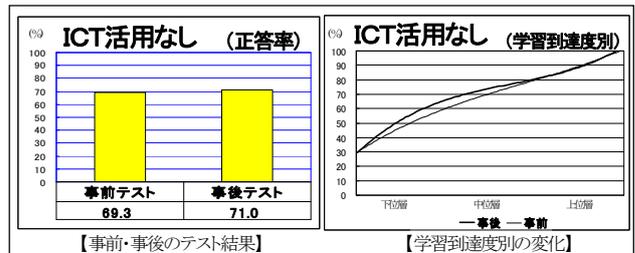
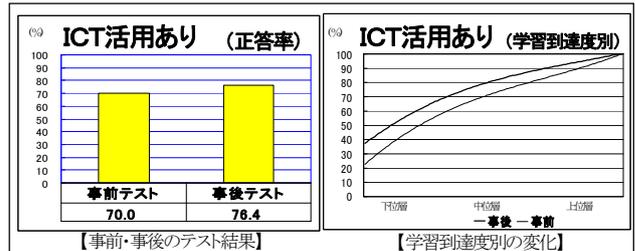
### 3 研究のまとめ

#### (1) 事前・事後のテスト及び意識調査結果

事後テストの結果、「ICT活用あり」は「ICT活用なし」に比べて、正答率の伸びという点

で4.7ポイント上回った。学習到達度別の変化では、下位層から中位層に伸びが見られた。

また、子どもアンケートでは「非連続型テキストを読む力」「算数への意識」において、「ICT活用あり」では、それぞれ0.3、0.2ポイントの上昇になった。



#### (2) 研究の成果

「非連続型テキストを読む力」の育成のために、「ICTを活用する」授業の効果として、次の4点が明らかになった。

##### ① 「思考の流れの可視化」

ICT を活用することで、考え方の手順を一つ一つ視覚的に表現し、考え方のポイントをつかませることができた。

##### ② 「課題の焦点化」

多くの情報が入っている非連続型テキストの中から、必要な部分だけを読み取らせることができた。

##### ③ 「表現方法の共有化」

書画カメラを使い、手元と同じものを大きく映し出すことで、文章表現に対して効果が見られた。

##### ④ 「意欲の向上」

映像や写真を見せることで、児童の取り組む意欲の向上につながった。

## 【研究報告 第389集】 概要版

### 学校における不登校及び不登校傾向生徒への効果的な支援方法の研究 —登校支援委員会での取り組みを中心に—

四日市市教育委員会教育支援課

適応指導教室 市森 幸子・渡辺 由紀・古森ゆかり

#### 1 研究の目的

登校支援委員会が中心となって、学校が組織的に不登校及び不登校傾向生徒への支援に取り組むことにより、不登校問題の状況を改善することを明らかにし、その方向性を示す。

#### 2 研究の内容と方法

##### (1) 研究協力2校区での主な取り組み

不登校及び不登校傾向生徒への支援策として、以下の3点に取り組んだ。

##### ① 登校支援委員会の設置と運営

不登校生徒への支援を、学校組織として取り組むことを目的とした組織である。

登校しぶりの兆候や登校支援を必要とする生徒の情報を把握し、支援方針の検討を行う。また、専門機関との連携に関してコーディネーター的な役割を担う。

構成メンバーは、管理職、養護教諭、教育相談担当、スクールカウンセラー（SC）等である。

##### ② 小・中学校間の連携強化

不登校になりやすい傾向にある児童の情報を得る範囲を明確にし、広げた。

口頭ではなく、該当児童一人につき【小中不登校連携シート】A4版1枚の紙媒体で行った。

##### ③ 連続欠席3日間の早期対応

早期対応が行いやすいよう、初期段階での学校組織としての支援方法を事前に決めておいた。

ア 欠席1日目 電話による実態把握

イ 欠席2日目 家庭訪問による実態把握

ウ 欠席3日目 縮小版登校支援委員会

情報共有資料として【3日目シート】を活用した。

##### (2) 期間

平成23年度一年間の取り組みとして実施した。データは、平成22年度末の小・中学校引継ぎ時から、平成23年度2学期末までのものを活用した。

##### (3) データの収集

① 不登校生徒を主対象とした校内委員会の設置について、本市の全公立中学校への聴き取り調査を実施

② 研究協力校での「不登校支援に関するアンケート」を実施

③ 研究協力校の登校支援委員会構成メンバーとSCへの聴き取り調査を実施

##### (4) データの分析

登校支援委員会に特に必要とされる“情報集約・継続・専門性”の3つの視点で、支援策を分析した。

#### 3 研究のまとめ

##### (1) 登校支援委員会

本研究において、登校支援委員会が中心となって組織的に登校支援に取り組むことが、不登校問題の状況を改善する一つのアプローチであることが明らかになった。

登校支援委員会に情報を集約できるシステムを作り、その該当生徒の背景を含めた情報をもとに、継続して支援方針の検討を行う。

その際、多面的な視点での生徒理解と、できるだけ多くの具体的な支援の手立てをもつことが重要である。そのためには、教職員の専門性を高めることが必要であることがわかった。

今後、登校支援委員会を中心となって担う登校支援コーディネーターの設置が望まれる。

##### (2) 小・中学校連携の有効性

小・中学校間で、不登校児童だけでなく、不登校になりやすい傾向にある児童の情報集約のため、【小中不登校連携シート】で引継ぐことは、未然防止の観点で効果的であった。特に、情報が少ない中学校1年生1学期の指導において有効であった。

今後、生徒理解をより深めていくためには、中学校入学後に、小学校側との懇談の場を再度もつことが必要だと考えられる。

##### (3) 連続欠席3日間の早期対応

連続欠席3日間の早期対応を行うことが、学校全体の登校支援の意識を高めるきっかけとなることがわかった。まずは欠席日数を意識し、連続欠席があれば少人数でも情報共有し、支援について話し合う場をもつことが大切である。そして、担任一人で抱えるのではなく、複数で関わり継続して支援方針の検討がなされることで、効果的な登校支援へとつなげることができる。

各研究の詳しい内容は、四日市市立教育センター教育情報データベース（市立小・中学校・幼稚園のみ閲覧可）をご覧ください。

(URL <http://yec.db.city.yokkaichi.mie.jp/>)

**教育情報データベース**  
四日市市教育委員会



The screenshot shows the website interface for the Education Information Database. At the top, it says '教育情報データベース' and '四日市市教育委員会'. Below that, there are navigation links for 'グループ' and 'マイキャビネット'. A table lists various research topics and their corresponding database names.

グループ	キャビネット名	
マイキャビネット	1. 研究調査報告	教育研究 データベース
お知らせ・教育センターニュース	2. 学習指導案	教育セ ンターの 情報発表
研究・研修・指導案・実践型ライブフォーラム・図書情報誌	3. 図書情報誌	教育セ ンターの 情報発表

